

保護者の皆様へ — 臨時休業（休校）だより 9 —



佐賀大学教育学部附属小学校

藤の花は美しい房となって下がり、佐賀城や県庁周辺のつつじは華やかになりました。我慢の日が続いています。子どもさんやご家族の皆さんはお元気でしょうか。



学校再開または休業延長について

昨日の「はなまる連絡帳」でお知らせしたとおり、当面の臨時休業延長は公立学校と同じく5月10日迄、11日学校再開予定となりましたが、昨日の「緊急事態宣言」の延長と本日の専門家会議を受け、休業の再延長の可能性も出てきました。

「緊急事態宣言」の延長については、今のところ正式決定は5月4日になるとの報道ですが、この決定によって、附属学校園の臨時休業と学校再開も改めて決まるものと考えています。

報道によれば「緊急事態宣言による外出自粛や特定業種の営業自粛など、『当面この枠組みを維持することが望ましい』とした。全国のほとんどの小中高校で休校が続いているが、提言案は『児童生徒の学習の機会を保障していくことも重要。この感染症は持続的な対策が必要なことを踏まえると、学校における感染、拡大のリスクをできるだけ低減したうえで、学校の活動を再開していくことが必要だ』とも述べている。」とあります。ただ、「『緊急事態宣言』の1ヶ月の延長で意見が一致した」との報道も出ました。

本校の場合は、現在のところ

- ・ 11日（月）学校再開（佐賀県が休業要請した期間に合わせた現在の対応）
- ・ 18日（月）学校再開（佐賀市での感染者確認から2週間の間を空けるための附属小学校の案）
- ・ 6月1日（月）学校再開（政府の非常事態宣言延長を受けた場合の最も長い休業期間を想定）

の、3つの可能性を想定しています。また、佐賀県知事の要請によって、これ以外の期日もあり得ます。

5月中の学校再開となった場合は、**時間差登下校による5・6校時授業**として、登校時間帯に幅を持たせることで、バスの混雑を避けたり送りを可能にしたりするとともに、下校の際の、児童玄関やバスでの混雑（密集・密接）を緩和し、子ども達の安全性をより高めます。先日の保護者アンケートの結果も考慮してのことですが、それでも、送迎に負担があったり送迎が出来なかったりされるご家庭もあります。安全と負担と学習保障の面を考え合わせて、登下校の方法の選択肢を多くした対応です。**佐賀県内での感染拡大の可能性が下があれば、通常登下校と通常授業に戻ります。**引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

「子どもの居場所」について

今回の臨時休業で開設した「子どもの居場所」には、約40名の申し込みがありました。ただ、お気の毒でしたが、申し込みをお受けできなかったご家庭もありました。

今回の「子どもの居場所」の開設期間の予定が5月1日までだったため、「はなまる連絡帳」でご連絡したとおり、7日と8日にご利用を希望されるご家庭は、**人数を把握して対応するために、7日朝迄に改めてご連絡をお願いします。**36名までは受け入れが可能です。本日までの開設で、後半は1日につき20数名の利用となりました。

子ども達は、時間を持て余すこともありましたが、落ち着いて学習し、笑顔で過ごしていました。

アンケートの集約結果について その1

回答総数 476 世帯 (510 世帯中, 93.3%)

先日行ったアンケートでは、1日の回答期限であったにもかかわらず、多くのご家庭から回答をいただきました。改めてお礼申し上げます。その集約結果についてお知らせします。

☆ 各項目の表の下の○は、保護者の回答の傾向や意見から見た実情を端的に表したものです。

※は、現時点での校長の見解です。

☆「時々、場合によって当てはまる」や「△」の回答は、どちらの項目にも計上しています。

1 時間差登校や送迎について

(1) 時間差登校の現状について

(人) (全回答に対する%)

バスや徒歩で登校している。	224	47.1%
普段はバス登校だが、現在は送迎している。	204	42.9%
バスや徒歩で下校している。	237	49.8%
自主的に登校を控えさせている。	2	0.42%

○ バスでの感染の可能性を考えて、送迎をされている家庭が多い。

○ 同一の家庭で、都合によってバスや徒歩で通学したり、送迎したりされていることもある。

○ 登校と下校のいずれかを送迎されている場合もある。(保護者の仕事の都合)

○ 自主的に登校を控えさせている児童は、実際数は10名以上。

※ 混雑時を避けても、バス通学による感染の不安はぬぐえず、時間差登校開始当初は、市中感染の可能性は低かったが、現在は状況が悪くなっており、バスでの感染の危険性は高まっています。

(2) 送迎の負担感

車で送っているが、負担は大きい。	35	7.35%
車で送っているが、負担は大きくない。	75	15.8%
車で迎えに来ているが、負担は大きい。	36	7.56%
車で迎えに来ているが、負担は大きくない。	109	22.9%
送迎は、ほぼ円滑である。	100	21.0%
送迎で困っていることがある。	28	5.88%
今後とも、送迎は可能である。	200	42.0%
今後の送迎は困難である。	32	6.72%

○ 車での送迎の負担が大きな家庭は多くはないが、仕事のやりくりや家族の協力によって送迎をされている家庭が多い。負担の大きな家庭は、今後の送迎でも困難さを抱えている。

○ 下校時刻によっては渋滞が発生したり、近隣の施設の駐車場を利用されている方がいたりして、地域の方に迷惑をかけていることがある。

- ※ 危険を避けるために一方通行にしています。ただし、運動場に入って来る車の数や校門前を北から南へ抜ける一般の車の数、また、NHK横の渋滞の状況を見て、正門から右折して南方向に向かう誘導も行っていました。今後も可能であれば右折の誘導をします。
- ※ 運動場に車が満杯になる場合があります。運動場の西側は、体育の授業のために空けておくために、子どもさんを車に乗せ、速やかに運動場を出ていただく必要があります。

(3) 登校についての考え ※ 両方ともにあてはまる人を含む

現在、登校させたくはないが、休業ではないので止むを得ず登校させている。	68	14.3%
現在、不安はあるが、教育上登校させたほうが良いと考えている。	253	53.2%

- 「教育は大切だが、今は安全が第一である」という考え方と「教育上登校させたほうがよい」という考え方があり、問いの両方に○を記入された方も多い。

- ※ いずれの考えももつともであり、それだけに悩ましいところです。ただ、「緊急事態宣言」の全国への拡大や、4月下旬の県内の新たな感染の状況に鑑みると、現在は、子ども達をより安全な環境におく必要性が特に高まったと言えるでしょう。我慢のしどころが続きます。

(4) 時間差登校による子どもへの負荷や不都合 バス登下校への不安など

時間差登校で、子どもへの負荷や不都合が生じている。 バスでの登下校も心配である。	20	4.20%
時間差登校による子どもへの負荷や不都合は特にない。	269	56.5%

- 時間を遅らせた乗車では、バスの路線によって、混雑の具合に差がある。
(空いている路線もあれば混んでいる路線もある)

- 仕事の終業時刻の都合で、帰りは迎えに行くことができない家庭は、バスでの下校が心配である。一方、送迎ができないので、バス通学も可能であることを歓迎されている家庭もある。
- 6校時授業後の下校で、バスの混み具合が心配である。児童同士の混み具合もあるが、一般の方の乗車もあるので不安。また、児童はどこを触るか分からないので心配がある。
- 全校の下校時刻が重なった場合の、靴箱の混み具合が心配である。

- ※ 学校として最も避けるべきだと考えたのが、バスでの通学で、一般の方と一緒に混みあったバスに乗車することです。時間差登校をする場合は、今後とも登校時間に幅を持たせることが必要だと考えます。なお、学校は7:30に児童玄関を開錠します。

- ※ 今後学校を再開した場合には、いくつかの学年を5校時授業にするなどの、時間差下校を行うことにしました。(靴箱や運動場の混雑の解消や、保護者が児童を見つけにくいことの解消にもつながると考えます。) 1～3年生は、5校時授業で下校です。

- ※ これまでの時間差登校では、1時間ずつ学習時間が削減されていたので、今後時間差登下校を実施する場合には、短縮40分1校時の最大6時間授業を行います。

(9:00始業、16:00下校…6校時終了後の場合)

- ※ 送迎が困難な家庭への配慮が大きな課題です。ただ、終業後あまり長く学校で待機させることは難しいので、個別に相談を受けることも検討します。

2 臨時休業における登校日の設定や通常登校における家庭への影響

臨時休業をした場合、学年登校日を設けることは、児童や家庭に不都合がある。	25	5.25%
臨時休業をした場合、学年登校日を設けることには、不都合はあまりない。	408	85.7%
通常登校を再開した場合、送迎は可能である。	339	71.2%
通常登校を再開した場合、送迎はできない。	81	17.0%
時差登校の継続や通常登校の再開の場合、自主的に登校を控えることもある。	40	8.40%

- 多くの家庭では、臨時休業を行った際に学年登校日を設けることに不都合はない。
- 学年登校日に不都合がある家庭は、兄弟姉妹が別々に登校することによって、仕事によって対応が難しいことや、低学年の児童が一人で留守居をしなければならないことなど。
- 通常登校を再開した場合に、送迎ができない家庭が81世帯あるのは大きな課題である。
- ※ 通常登校となったときに送迎が出来ず、バス通学にはこれまでよりも大きな心配があることを看過できません。バスによる登下校の安全性が高まるまで、通常の時間帯で学校を再開することは困難であると考えます。
- ※ 臨時休業を再延長する場合は、2週間または1ヵ月単位となると考えます。その際は、**学年登校日は1週間に1度、3学年ずつ、午前中のみの分散登校とします。**
(3学年ずつとするのは、兄弟姉妹での登校が出来る状況を増やすため)

3 臨時休業における子どもへの影響について

(1) 子どもが家庭で過ごすことでの影響

子どものストレスは解消できない。	108	22.7%
子どものストレスはある程度解消できる。	235	49.4%
子どものストレスは特にない。	75	16.8%
子どもの居場所の確保に困る。	99	20.8%
子どもの居場所は、確保できる。	286	60.1%

- 前回の臨時休業を踏まえて、2割強の家庭が、子どものストレスが解消できないと回答されている。
- 子どもの居場所の確保に困られる家庭が99世帯（実際はより増える可能性が大きい）
- ※ 臨時休業となった場合、児童のストレスには、「体を動かせない」「子どもだけで留守居をする」「級友と合えない」「退屈である」といったことが要因として考えられます。
このことから、学年登校や運動場での運動の許可が必要です。
- ※ 子どもの居場所の確保が困難な家庭に対応するために、現在行っている「子どもの居場所」の学校対応は継続する必要があります。時間割を作成して、学習や一人活動の時間、運動や遊びの時間、読書やDVD鑑賞の時間を設定しているので、子ども達は落ち着いて明るく生活することが出来ました。ただし、密集を避けるために、受け入れ人数は36名が限度です。在宅勤務のご家庭が増えたためか、「緊急事態宣言」拡大後しばらくすると、しだいに利用者は少なくなり、1日に20数名の利用となりました。

(2) インターネットを活用した配信等への対応

ホームページや WEB コンテンツなど、インターネットを利活用した学習に対応できる。	377	79.2%
現在はインターネットを利活用できないが、環境を整えることができる。	46	9.66%
インターネットを利活用する環境を整えることができない。	22	4.62%

○ 保護者が不在の時にインターネットを児童のみで利用することには、危険や惰性が伴うとともに、学年によっては、児童が操作できないために、保護者がパソコンなどを操作する必要がある。

※ このアンケート後、「GIGABOX」による配信を行うことができるようになりました。

※ 大学の遠隔授業で利用されている「WEBEX」の利用が可能になりつつあります。大学の管理者からの承認が下りれば、遠隔授業が可能です。しかし、生配信であるため、受信側として対応できない家庭が多いことが課題です。

※ 「WEBEX」は、中学生や5・6年生であれば、受信して授業を受けることができると考えられますが、講義形式の授業になると考えます。また、低中学年児童の利用は、保護者同伴ではないと無理です。子どものみのパソコン使用は、有害サイトなどの管理の問題もあります。

※ インターネット利活用の環境を整えることができない家庭には、学校でタブレット端末を貸与し、「GIGABOX」による配信内容を、校内で閲覧したり印刷したりしていただくことができます。ご相談ください。

課題等のインターネット配信について

これは、現在配信している内容の一部です。3年生の算数の解説です。各学年で、その学年に合った内容や担任からのお便りを配信しています。私達は、この休業便りも含めて、子ども達が少しでも早く学校に来てくれることを願いながら配信しています。

図と式で考えてみましょう p.16

② $5 \times 8 + 2 \times 8$

$5 \times 8 = 40$
 $2 \times 8 = 16$
 $7 \times 8 = 56$

56

かけられる数を分けて計算しても、答えは同じですね！

「かけ算」教科書16～24ページで 学んだこと

- ・かけ算では、**かけられる数**や**かける数**を**分けて**計算しても、答えは同じになる。
- ・何十のかけ算は、**10がいくつあるか**を考えると計算できる。
- ・何百のかけ算は、**100がいくつあるか**を考えると計算できる。

こちらは5年生のお便りの一部です。どの学年の担任も、同じ思いです。

日本全国一人一人の力でウイルスの終息に向けて取り組んでいる時期だという思いをしっかりともち、今は我慢の時期と捉え、冷静に対応しながら過ごしていることと思います。まずは外出自粛と健康チェック。そして自由な時間をどのように使うのか。規則正しい生活をしながら計画的に学習に取り組み、しっかりと力を蓄える期間になるように願っています。

先が見通せない今、子どもたちも保護者の皆様も不安に思われていることと思います。学習面・生活面を含め、学年でできることが何か考えているところです。今できることを行う。学校が再開されても、休校のままだでも、できることをしっかりと。こんなときだからこそ、着実に成長できるようにしていきます。ご家庭のご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。